

# 「只見線縁結びライブ」開催

JR只見線利用促進実行委員会主催の「六角精児バンド」「只見線縁結びライブ」が6月11日、JR只見駅前広場で開かれ、約600人の方々が来場されました。

鉄道ファンで知られる俳優「六角精児」さんは、全国のローカル線の中でも只見線をこよなく愛しており、平成26年7月には、東京の大手町サンケイビルにて、今回も司会として参加した、同じ鉄道ファンのお笑い芸人「ダーリンハニー吉川」さんと「只見線トークイベント」を開催した経過があります。その後、六角さんから「いつか只見駅かその周辺でライブをやりたい」との話から、今回の「只見線縁結びライブ」が実現したものです。



▲「この広い宇宙のかなたで／八代亜紀さん」やオリジナルソング「只見線の歌」を熱唱する六角精児さん(右)と江上徹さん(左)



▲到着するJR只見線に手を振る六角さん、ダーリンハニー吉川さん、来場者の皆さん

ライブは、六角さんのバンドメンバーである「江上徹」さんと2名で行われ、只見線にささげる新曲「只見線の歌」をはじめ、10曲以上を披露しました。お二人のアコースティックギターを弾きながらの熱唱に、会場は大いに盛り上がりました。

イベントの途中では、只見線や代行バスを、六角さんや来場者とともに、手を振りお迎えとお見送りをしました。ライブ終了後には、「六角精児バンド」のCD販売とサイン会も行われ、売上の一部を只見線の活動にご寄付いただきました。

また、会場内では熊本地震への募金

活動も行いました。これは、「第41回只見ふるさとの雪まつり」で、町の復興を願い、チャリティーとして雪まつりへ参加し、温かいエールを送っていたいただいた歌手「八代亜紀」さんの出身が熊本県であることから、只見町から八代さんの出身地の熊本県を応援する為、イベントの中で募金活動を行ったものです。この活動に対して、八代さんから「6月18、19日に熊本で慰問コンサートを行うので、只見町の募金を直接現地へ持っていきます。」とご本人の音声メッセージが届けられ、会場で披露させていただきました。

その他、会場内では、トランポリン、ミニSL乗車、バランススクーター体験など多彩なイベントや大道芸人「ダメじゃん小出さん」の只見線にちなんだ楽しい大道芸が披露され、訪れた来場者を楽しませてくれました。



▲会場が盛り上がった「ダメじゃん小出」さん(右)の大道芸



▲只見線を利用して町外からも多くの方がイベントに訪れました



▲熊本募金をPRする六角さん(左)とダーリンハニー吉川さん(右)



▲子ども達に人気だったミニSL乗車体験、この日は約250名が乗車しました



伝承産品ブランド化支援事業

平成27年度の成果を発表

5月31日、町役場会議室において、平成27年度「自然首都・只見」伝承産品ブランド化支援事業の成果発表会が行われました。

この事業は、町における伝承産品の振興を目的としており、伝承産品の技術伝承、開発、販売を行う町内事業者に対して、1件につき30万円以内で支援をしています。

平成27年度は、11事業者が商品のパンフレットやパッケージの作成、伝承技術習得の勉強会などに活用し、その成果を発表しました。今後、商品化されたものに関しては、「自然首都・只見」伝承産品認証委員会の審査を受け、晴れどを貼り販売されます。



▲写真は平成27年度参加事業者の皆さん

町では平成28年度参加事業者を集集しています。詳しくは総合政策課地域振興係まで。(☎82-5220)

ユネスコエコパーク関連事業

「ただみ豪雪林業体験・観察の森」整備事業を実施

6月5日、豪雪地帯に適応した森林管理技術の開発とその普及、そして体験を図ることを目的とした「ただみ豪雪林業体験・観察の森」(体験の森)の整備事業が行われました。

国有林の職員10名と町内から3名のボランティアが参加し、作業道の設置、簡易測量、毎木調査(樹種や幹回りの大きさを測定する調査)が実施されました。また、当日は本事業に資金協力をいただいている、野村総合研究所から4名の方が視察に訪れました。今後は、調査結果に基づき森林管理の方針が検討され、具体的な施業が計画される予定です。



▲体験の森の前で町長とボランティアの方々による記念撮影と毎木調査の様子

ふるさと只見会

只見町を訪問

首都圏などの都市部に在住している只見町出身者などで構成される「ふるさと只見会」一行16名が6月4〜5日、只見町を訪問しました。

今回の訪問は、ユネスコエコパークに認定された只見町と、国道289号八十里越道路工事区間の視察が目的で、昨年11月に東京で行われたふるさと只見会の集いの中で決定したものです。ふるさと只見会の皆さんは、目黒町

長や観光商工団体の方々との交流会を行い、「癒しの森」、「国道289号八十里越道路工事区間」、「河井継之助記念館」、「塩沢山菜まつり」などを視察しました。

ふるさと只見町を思い集まった「ふるさと只見会」の会員は、現在約500名。今回の視察を通して確認した、只見の素晴らしさを広く発信していきます。



▲癒しの森をトレッキングしたふるさと只見会の皆さん

只見町山村教育留学生

「留学生農園」で苗植え

6月12日、只見高校に通う町山村教育留学生が、只見駅裏の畑「留学生農園(T・Sファーム)」に、農作物や向日葵の苗植えを行いました。

この活動は、耕作放棄地の畑で農作物を育て、収穫した野菜を只見駅構内の売店で販売する取組みで、3年前から始まりました。販売した売上は、留学生で構成される寮生会の運営費にあてられます。

この日は、留学生5名と町教育委員会2名により、きゅうり、ナス、とうもろこしなどの作物の苗が植えられました。また、只見線などで来町される方々に楽しんでもらえるよう向日葵の苗も植えられました。

留学生は、「駅近くに来た際は、ぜひ見て欲しい」と話していました。



▲暑中元気に苗植えをする山村教育留学生5名



## 山村教育留学生の受入を強化

# 奥会津学習センター増設工事開始

只見高校に通う山村教育留学生の寮「奥会津学習センター」増設工事が6月に着工となりました。新奥会津学習センターの完成は平成29年3月下旬を予定し、同年4月から只見高校新入生の受入を開始し、合計60名の受け入れが可能となります。

現在、学習センターの定員数は40名。ここ数年山村教育留学生に応募する生徒が増え、学習センターの受入容量が足りていないという問題があります。平成28年度山村教育留学生は、新入生14名を含め1年〜3年生全体で45名です。学習センターで受け入れできない留学生は下宿で受け入れています。



▲奥会津学習センター完成予想図。同敷地内に増設されます

そこで町では、町外から留学生の受入をさらに強化し、入学生の増と他地区の生徒との交流をさらに広げる為、留学生の受入の拡充を図る増設工事を行っています。

平成28年度の只見高校の生徒数は全校生115名、うち留学生は45名で全体の約4割を占めています。

只見高校を存続させる為には、入学生を増やさなければなりません。只見高校においては、入学者が定員の半分以上(定員は70名。半分以上は35名以下となる)が3年連続と「分校化」となり、さらに3年連続で定員の半分以上を割ると募集停止となり「廃校」になります。

只見高校では平成24年度に34名の入学者となり、分校化に足を一歩踏み入れた状況になりました。もし廃校となった場合、中学校を卒業した生徒は、町の高校へ通学や下宿などをしなければなりません。町民の経済的負担は大きくなり、子育て環境が悪い町となることが懸念されます。そして何より、町から全ての高校生が町外へ出て行ってしまつたら、地域活力は著しく低下し、人口減少が加速するものと予想されます。絶対に廃校は避けなければなりません。以上のことから受け入れを強化する為、奥会津学習センターは増設工事を行います。

## 明和地区7集落の人口ビジョン

# 地域おこしを考える会を開催

明和自治振興会主催の「7集落の人口ビジョンから地域おこしを考える会」が6月11日、明和振興センターで行われ23名が参加しました。

講師に鳥取環境大学の倉持裕彌准教授を迎え、過疎対策の先進地である鳥取県の取組みを紹介していただきました。倉持准教授は、研究の中で考案した「集落創造シート」を活用し、明和7集落の人口ビジョンを説明。約20年後には、集落の人口が半減してしまうと予想されましたが、「一番重要なのは人口減少する集落の地域活性化であり、その為の取組みについて鳥取県を事例に紹介していただきました。

最後に参加者を交えた活発な質疑応答があり、集落の活性化に繋がる講演会となりました。



▲取組みを紹介する倉持准教授

## 町内3小学校で

# 人権の花運動を実施

町内3小学校で、「人権の花」運動が行われ、人権擁護委員(山内妙子さん、鈴木厚さん、渡部等さん)の皆さんと一緒に児童達が人権の花を植えました。

この取組みは、花の種子などを児童達が協力し育てることによって、生命の尊さを実感しその中で豊かな心を育み、優しさと思いやりの心を体得することを目的としたものです。植えられた花は、今後近隣の施設等に配布する計画です。人権擁護委員の皆さんは児童達に「人権という種をまきましよう」とお話しされました。今回の取組みによって、子ども達が人権について学ぶ良いきっかけとなりました。



▲(写真:朝日小学校)人権擁護委員の皆さんと一緒に心を込めて花を植えた児童達

## 荒井原納税貯蓄組合に 知事から感謝状

荒井原納税貯蓄組合に

6月7日、福島県文化センターで開催された福島県納税貯蓄組合連合会第50回定時総会において、荒井原納税貯蓄組合が優良納税貯蓄組合として知事感謝状の贈呈を受けました。

優良納税貯蓄組合の選考基準は、組合員数が15人以上で活動年数が15年以上であること。そして県税の納期内納付率が優良であり、組合運営が他の組合の規範であることなどがあり、荒井原納税貯蓄組合の、日頃の地道な活動が評価されました。

表彰式には、荒井原納税貯蓄組合長の目黒周子さんが参加し、感謝状の贈呈を受けました。おめでとうございます。



▲知事感謝状を受ける目黒周子さん

## 町内3小学校の修学旅行 東京上野で只見町をPR

町内3小学校の修学旅行

6月8〜9日、町内3小学校の6年生29名は、東京方面へ修学旅行に行き、その修学旅行の中で只見町のPR活動を行いました。

今年3小学校合同でPR活動を行い、町のパンフレットの他に児童達がい、町のパンフレットの他に児童達が心を込めて作ったパンフレットを付けて渡しました。

児童達にとって東京で知らない人に声をかけることは大変なことでしたが、一人一人が勇気を出し声をかけ一生懸命に町をPRしました。中には忙しそうに断られるときもありましたが「今度只見に行ってみるからね」などと、児童達を応援する言葉もありました。児童達は「ありがとうございました」とお礼の言葉を伝えるとともに、一生の思い出になりました。



▲(写真:明和小学校)  
一生懸命只見町をPRする児童達

## 只見中学校 ブリティッシュ・ヒルズで語学研修

只見中学校

福島県天栄村にある語学研修施設「ブリティッシュ・ヒルズ」において6月14日〜15日、只見中学校の1年生30名と2年生30名が、英語の語学研修を行いました。今回の研修は「南会津学習サポート事業」の一環で、生徒の語学力向上を目的に、1年生は日帰り、2年生は1泊2日で行われました。

ブリティッシュ・ヒルズの公用語は全て英語で、イギリス出身などのスタッフが英語で対応します。生徒達は、自分が知っている英語に身振り手振りで相手とコミュニケーションをとっていました。

研修後に行われたライブ授業では、ブリティッシュ・ヒルズでお世話になったブルック先生が訪れ、生徒達は英語でコミュニケーションを図っており、生徒達の中で英語が身近になったように感じました。



▲英語でコミュニケーションを図る生徒達

## 只見小学校で 水墨画の授業

只見小学校で

6月24日、銀閣寺などで水墨画の講義をされる日本美術史家の高橋範子先生が、只見小学校で水墨画の授業を行い、全校生が参加しました。

今年で3年目となるこの授業では、始めに「雪村」の本物の絵を見ることが始まり、描き方や筆の動きを高橋先生に教えて頂き、その後低学年は岩の絵、高学年は梅の木を描きました。高橋先生は「筆一本で色んな描き方ができるので、描き方・リズムを自分で考え表現して下さい」と児童達に目標を掲げましたが、今年で3年目を迎える児童達は、水墨画特有の「ぼかし・かすれ」を上手に表現し、高橋先生を驚かせていました。

高橋先生は「只見の山は雪村の絵にある山に似ており、只見の自然が大好きです」と穏やかな言葉と大らかな笑顔で教えてくれました。



▲高橋先生と高学年の児童達  
水墨画3年目の実力を発揮しました